

令和7年度 第2回 淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会 議事録
 (あわじ石の寝屋緑地あり方検討 抜粋)

1 日時 令和8年3月2日(月) 14:00~15:40

2 場所 淡路ハイウェイオアシス やまもも

3 出席者(委員)

嶽山洋志委員(会長)、澤田佳宏委員、山本正彦委員(代理出席の海部みどり様)
 坂田隆二委員、吉栖雅人委員、首藤健一委員

4 協議事項

- (1) 自然環境保全に関する基本的な考え方(案).....資料1
- (2) 活性化に関する基本的な考え方(案).....資料2

5 議事要旨

公園緑地課より資料1、資料2に基づき説明。

発言者	発言内容
嶽山会長	ただいまの説明に対するご意見やご質問をお願いします。
嶽山会長	前回のご指摘を反映しているので、確定で良いかと思う。ちなみに竹林の中にある希少種は何か。
県公園緑地課	ハンゲショウである。
澤田委員	2000年代のアセスの調査時の報告書であるので、今もあるかどうかわからない。
県公園緑地課	ゾーニング図の下にある貴重種はコオイムシである。
海部様	コオイムシは他にもいる。
澤田委員	<p>どこかの時点で出たもので地図を作らないと仕方がないのでこうなっている。実際に保全するにあたっては、その時その時で、どこに何がいるかという情報は積み上がっているだろうから、それに応じた保全ができればそれで良い。</p> <p>あり方検討では大枠を示すという方針になっている。具体的な細かい保全計画は、協議しながら進められるような書かれ方に概ねなっている。保全目標の設定も「基本的な考え方」では大枠として示しており、実施に向けてのより詳細な目標設定は、今後これの下部で具体化をしないとイケない。それができるような枠作りにはなっている。大枠づくりのはずが、前回私が突っ走って細かくしすぎているかもしれないが、今後、石の寝屋緑地で何かしようとした時に、公園の様々なステークホルダー(ユーザー)の手順にもつながる。まずは大きな枠としてこれでいこうという話を出しておく。繰り返すが、詳細の計画は、今後個別に検討しながらになる。</p>
県公園緑地課	建付けとしては、あり方検討の大枠があり、それにリノベーション計

発言者	発言内容
	画という細かい計画いわゆるどこを整備するのかという方針とセットで作ることになる。それは再度、管理運営協議会で議論することとなるが、重点的に整備すべき項目出しと優先順位をリノベーション計画の中で行い、協議会の中で協議してもらう。
嶽山会長	前のリノベーション計画の見直しか。
県公園緑地課	更新である。
澤田委員	リノベーション計画の更新を行うにあたり、この公園の価値がどこにあるのかをこのあり方の中で謳っている。この公園の価値を損なうような改変がされにくいようになる。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	言葉の確認であるが、2ページの2つ目の項目で、「管理運営協議会等において…」となっているが、この「等」のイメージは何か。
県公園緑地課	基本は管理運営協議会である。ただ、部会と協議会の仕組みで、部会が活動メインになっているので、活動体としての位置付けなど、今後仕組みを考えていく必要があることも踏まえている。最終的には協議会で協議を行うが、他にも活動する場からの意見もあると考られるので、「等」としている。ここでは、「等」が具体的にどれということはないが、将来的に組織ができた場合を踏まえて「等」と記載している。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	機能を持ったところという意味か。
県公園緑地課	そういう機能を持ったところが出てくるが、最終的に、管理運営協議会で協議をするところは変わらない。
嶽山会長	より具体的な活動やコンフリクトが発生しそうな案件とかは、もう少し時間をかけてやらないといけない。そういうところは、別の機会を作りながらということで、最終的には協議会で議論する。
県公園緑地課	そうである。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	もう1点ある。4ページのゾーニング図Bのアカマツ林であるが、ゾーニング図Aでは他にもアカマツ林はあるが、なぜここだけ色が塗られているのか。
県公園緑地課	優先的にアカマツ林の中でも整備すべき場所はここであると考え、整備する方針では、今はここだけを入れている。他のところも全て整備するわけにはいかないの、まず優先的に整備しないといけないところはここであると考え印をつけている。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	上の欄外にかっこ書きで、「生態系管理および活用目的に…」と書いてあるが、このアカマツ林の間伐であるとかは、今の段階では想定できない。どうしてここが塗られているのか。
澤田委員	色を塗っているアカマツ林を全て整備するという意味ではないと思う。ここら辺を中心に、この中で特に優先度の高いところからやっていくべきだというくらいの意味かと思う。 このアカマツ林は階段の上の左右、園路の左右両側で合っているのか。

発言者	発言内容
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	下側、東側だけである。赤い線が園路である。
澤田委員	赤い線は園路なのか。境界ではないのか。
県公園緑地課	赤い線は開園区域で、ほぼ園路が赤い線上にある。ゾーニング図Aで園路と書いている青い線を取って、ゾーニング図Bではアカマツ林の色だけにしている。ゾーニング図Aとゾーニング図Bのアカマツ林の位置が一致しているように作っているがわかりにくい。
澤田委員	ポリゴンの境界があり、園路の幅を広く取った分、少し南にずれている。
嶽山会長	まずはここを手始めに取り掛かろうということ。
澤田委員	実際のイメージは、尾根のような部分、痩せ地の部分で、かつて禿山だった部分。海側を見た時に、園路よりも左側（北側・敷地協会側）である。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	そうすれば、園路を両方挟んでいる図になるのでは。
澤田委員	そうになっているが、あの中でどこを切るかという話具体的な話は、この「あり方」の下位の計画で扱うことになる。今後、アカマツ林の疎林として管理すべき場所は、園路から大阪湾を見て左側、つまり園路の北側になると考えている。その辺は、この「あり方」のもと、具体的な保全計画を立てていく段階で、絞り込んでいければ良いかと思う。ただ、管理事務所としては、ここにこの色が塗られていることで何かをしないといけなくなるというイメージか。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	ここを特だししているが、それはなぜかというところ。
澤田委員	ここは湿地と同じくらい大事だと思っている。尾根部のアカマツ林の遷移は今進んでいるように思う。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	園路の左右か。
澤田委員	左右ともそうであるが、特により尾根側、古墳側である。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	それであれば、私もそういう意見を持っている。
澤田委員	少し古めの航空写真を見ると、本当に禿げている。そのせいで、極端に明るい環境で、昔のアカマツ林の疎林に生えていただろう植物とかもまだかろうじて残っている。アキノキリンソウやニガナとかは、この辺に少し残っている。そういったものをもう少し増やせるくらいの明るさを維持した方が良いだろうと思っている。そういう意味で間伐が必要ではないかと思っている部分である。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	今色が塗られている真ん中に園路があるということか。この図では園路が見えないので。
澤田委員	これはゾーニング図Aのところで園路を太めに描いた時に、アカマツ

発言者	発言内容
	林の範囲が南にずれて描かれているので、園路を挟んだように見えなくなっている。そう思うと図面は大事である。図面だけ少し修正をするか。
県公園緑地課	アカマツ林の色を境界線に合わせれば正確になるのか。
澤田委員	そうである。
県公園緑地課	そうであれば、アカマツ林を少しずらして、園路は描かずに基本そのエリアだけを書くということで修正させていただく。
嶽山会長	他はいかがか。ないようなので、今ご指摘のところの修正をお願いします。

以上